



共に生きる、共に支える
災害時の多文化共生の重要性

NGOダイバーシティとやま 宮田妙子

自己紹介 宮田妙子

1991年～日本語教師として日本語学校や大学、企業において外国人留学生や技能実習生への日本語教育や生活支援を行う 現在 NPO法人富山国際学院理事長

2008年～ 射水市 多文化こどもサポートセンター

外国にルーツを持つ子どもたちのサポーター代表

2011年～ NGOダイバーシティとやま代表理事

2012年～ 自治体国際化協会認定多文化共生マネージャー

その他 NPO法人ダルクリカバリークルーズ監事、NPO法人まちスポとやま監事

富山県自閉症協会理事

農薬・化学肥料・除草剤なしで美味しくて安心な野菜作りを行う「ハケ山ベジラボ」で多文化共生畑を展開、フードバンクとやまでの分配活動等も行っている。

(現在の委員)富山県総合計画審議委員、富山県地域日本語教育推進会議座長
富山県外国人材活躍・多文化共生推進にかかる有識者検討会委員



本日の目次

- 災害時に外国人が陥る現状
- 能登半島地震での事例
- 富山の外国人住民の行動
- 災害時の多文化共生の重要性

災害時に外国人が陥る現状

1. 基礎知識が少ない
2. 母語で詳細な情報が得られない
3. 災害時の日本語が難しい
4. 地域との付き合いが希薄
5. 行政の対応が遅れている

災害発生から72時間

電話・インターネットが使えない
情報が伝わりにくい



1



3

72

IRS



脱出
EVACUATION



避難
EMERGENCY
EVACUATION AREA



二重の被災者(外国人)

情報

「何が起こったのか」「どうなっているのか」
「どうしたらよいのか」



自ら判断、行動できる



心の負担軽減



能登半島地震での事例

地震発災直後

- ・裸足で外に出てしまい足を怪我してしまった(珠洲のインドネシア人)
- ・初めての地震でパニックになってしまった(富山のパキスタン人)
- ・何もわからず部屋で一人で泣いていた(富山のスリランカ人)
- ・アルバイト先ですぐ帰れと言われたが、アパートに帰るのがいいのか避難場所へ行った方がいいのかがわからなかった(富山のネパール人)

避難途中

- ・どこに逃げていいかわからず、とりあえず外に出たら渋滞に巻き込まれた(富山のパキスタン人)
- ・すぐに津波が来ると聞かされ、山の方に逃げたが、車だらけで身動きが取れなくなった。(富山のバングラデシュ人)
- ・SNSでコストコに集合していることを知り、コストコに向かった。
(富山のパキスタン人)

⇒外国人住民はコミュニティのSNSを頼りにしている人が多い

避難所で

- ・家に帰るのが怖くて、他地域の避難所に最後までいた(富山の中国人)
- ・日本語でしか案内がなく何もわからずすぐに帰った(富山のフィリピン人)
- ・避難所にしばらくいたが、非難の目で見られていたたまれなくなって出てしまった(珠洲のインドネシア人)

避難所運営を考えるワークショップ出てきた意見

2024年10月29日・2025年1月13日実施(ダイバーシティとやま主催)

参加した外国人住民

パキスタン6人、ベトナム4人、ネパール3人、ブラジル1人、シリア1人、中国1人

＜現れてきた困難さ＞

- ・そもそも避難所の場所がわからない。避難所がどういうところか知らない。
- ・避難所に行っても邪魔者、迷惑な存在のように見られる。
- ・災害が起きたときに何をすればいいのかわからない。
- ・外国人コミュニティ同士での支え合いになり、日本人に当たり前に提供されるサービスが外国人に届いていない。
- ・日本語がわからないので、衣食住に直結する情報も届いていない。
- ・行間を読む日本語、日本人同士の暗黙のルールがわからない。
- ・お荷物になっている外国人への苛立ち
- ・外国人であっても役に立てることはたくさんあるはず。日本社会に対する勉強不足や災害時に災害弱者になっていることへの苛立ち

<困難さを発生させる理由>

- ・日本特有の災害(特に地震・水害)を知らない。
- ・災害に関する日本語の情報が難しい。行政の情報が届いておらず、防災情報(避難所の位置やハザードマップ等)に疎い。
- ・言葉や習慣の違い
 - 日本人の曖昧な言い方(丁寧な言い方)では伝わらない。
 - 宗教的な違い。
 - 特に、射水市に多いムスリムの場合、食事(豚肉やアルコール等)
 - お祈りの時間や場所の確保、男女の接触への制限など
- ・外国人も地域住民の一人であるという自覚の欠如



発災直後からトラックに
水や支援物資を詰め込
んで氷見へ



(第3種郵便物認可)

助け合い泥かき出し

液状化被害の射水 港町

能登半島地震で液状化の被害を受けた射水市港町(新湊)で14日、外国人や地域住民らのボランティア約90人が復旧作業に協力し、砂泥を撤去した。(山崎響子)

港町では住宅が傾いたり、道路がひび割れたりする被害が多発。親類宅に身を寄せる住民も少なくない。地元の港町古新町西部自治会から依頼を受けて、市社会福祉協議会がボランティアを募集した。

この日は、同市などのパキスタン人やバングラデシュ人らでつくる「富山国際社団体」のメンバーが参加。同社協と災害時の支援協定を結ぶ新湊、小杉の両ライオンクラブも協力し、住民と一緒に側溝の泥をスコップでかき出した。

富山国際社団体のザヒド・アワン副代表(28)は「自分たちもここで暮らしているから、助け合つのは当然。少し

在住外国人ら協力

でも町がきれいになろう頑張りたい」と話した。同日自治会の佐竹正会長(74)は「ボランティアの皆さんの頑張りに応えるためにも、」

日も早く元氣な町を取り戻したい」と語った。

住民と一緒に復旧作業を進める富山国際社団体のメンバーら。射水市港町

2024.1. 15 北日本新聞

射水市の外国人住民はすぐに動き出した

- ・発災の日にコストコ駐車場で炊き出し
- ・富山モスクを避難所として開放
- ・支援物資を被害の大きかった氷見市、能登に。
- ・土砂撤去や壊れたブロック塀や灯籠の撤去



- ・輪島でパキスタンカレーの炊き出し
- ・珠洲のインドネシア人実習生へ
ハラルフードの物資支援
- ・射水市に避難していた七尾の高校生への
炊き出し





富山モスク



困っている人助けたい

富山ムスリムセンター サリムさん

全国被災地で炊き出し



被災者にカレーを提供するサリム・マゼンさん（右）
＝1月、石川県珠洲市の避難所

「困っている人を助ける」。県内に住むイスラム教徒でつくる「富山ムスリムセンター」の代表理事サリム・マゼンさん(50)は、能登半島地震など全国の被災地を回り、カレーの炊き出しなどボランティア活動を続けている。活動の基になっているのはイスラム教の教え。「より早く支援を届け、多くの人に喜んでもらいたい」と話す。

サリムさんはシリアの首都、ダマスカス出身。モスクワの大学で機械工学を学ぶ傍ら、貿易会社で働いた。卒業後、仕事のため富山に移住。貿易業の会社を立ち上げた。

仲間と富山ムスリムセンターを立ち上げたのは2014年。留学生の住まいの確保やイスラム教の戒律に従ったハラル食の認証などをしている。センターの開

設と共に災害ボランティアを本格的に始め、熊本地震や広島土砂災害の被災地などに駆けつけた。元日に発生した能登半島地震では発生から3日後に初めて現地入り。レストランで働く仲間がカレーを作り、これまで50回以上石川県輪島市や珠洲市を訪れ、多い時は1日で600人分を提供したという。

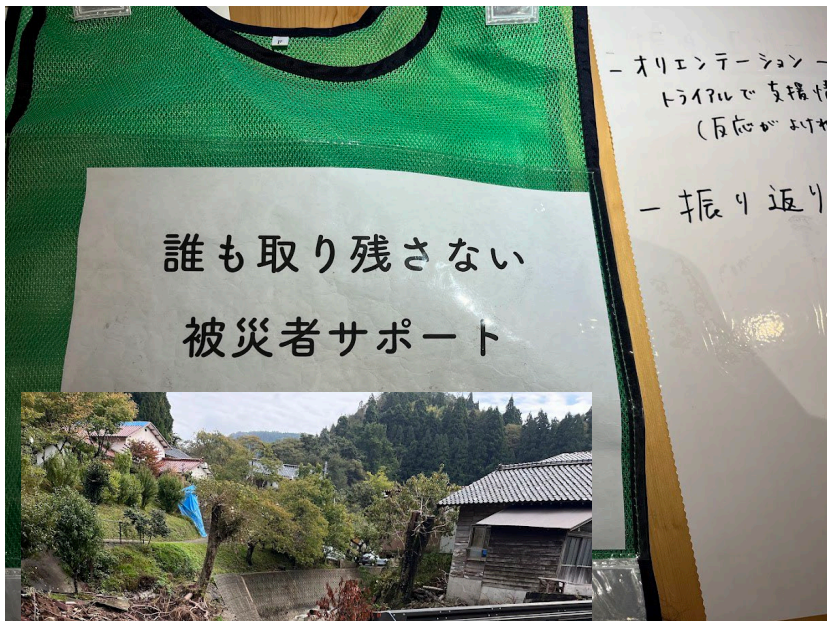
募り、内戦が続くシリアや、ミャンマーのイスラム教徒少数民族ロヒンギアのために「富山」を冠した学校も建設した。「故郷を離れているから、今住む日本や富山のことは関係ない」という姿勢は教えに反する。全国どこでも、困っている人がいれば、できる限りのことをする「とサリムさん。今後は災害発生後、少しでも早く被災地に支援を届けられるよう、炊き出し用の機材やスタッフを増やすなど、態勢の充実を目指す。「人間には温かい食事や住まいが必要。災害や戦争で苦しむ人々に少しでも安心してもらいたい」



2024. 11.2 北日本新聞

TMCとやまムスリムセンター

厚労省の「被災高齢者等把握事業」で、輪島市の約11,000世帯を全戸訪問するのに携わった中で、多くの輪島の人や外国人住民にも出会う。



訪問途中で突然
道が崩れていた所
も多々あり
→

今にも裏の崖が
崩れてきそうなの
に、ここに住
みたいと… ↓



最初のアセスメント調
査の時に、出会った日
本人配偶者のブラジル
の方
「うちは地震で壊れな
かったから大丈夫」→
しかし、9月の水害で
1階部分がめちゃめ
ちゃに…



防災に備えての富山の外国人住民の動き

土砂災害 孤立集落に対応 防災訓練

射水市総合防災訓練は29日、南太閤山地区で行われた。

多言語ボードで外国人支援

射水市総合防災訓練は29日、南太閤山地区で行われた。多言語ボードで外国人支援が行われた。

魚津

VR、ARで地震、火災体験

魚津市総合防災訓練は29日、同市本江地蔵交流センターで行われた。

日本語をフルコープに翻訳する参加者

射水市小杉南中体育館

訓練は、鳥羽山断層帯を震源とする地震の発生し、南太閤山地区で建物倒壊や火災、液状化によるライフラインの寸断などが発生した想定で行われた。

小杉南中体育館

日本語をフルコープに翻訳する参加者

射水市小杉南中体育館

訓練は、鳥羽山断層帯を震源とする地震の発生し、南太閤山地区で建物倒壊や火災、液状化によるライフラインの寸断などが発生した想定で行われた。

小杉南中体育館

2024.9.30北日本新聞

射水市総合防災訓練
多言語指差しボードに
ないウルドゥ語を作成



12月16日外国人住民主催で
市役所の人や地域の人を招き
防災や地域のことについて学び、
子どもたちが日本での将来につい
て語る会を開いた

「外国人住民や自閉症・発達障害の人がいる避難所運営を考える」セミナー開催
 1回目のセミナーでは外国人住民や自閉症・発達障害のある方の避難所や避難生活について考えるワークを行い、2回目のセミナーでは「自分ができることカード」と「手伝ってほしいカード」を作成し、避難所の支え合いを考えるためのカードづくりを行った。



避難所の在り方を考える参加者—射水市救急薬品市民交流プラザ

避難所の在り方考える

ダイバーシティとやま 射水でセミナー

大規模災害時の避難所で
 の助け合いをテーマにした
 セミナーが13日、射水市戸
 破（小杉）の救急薬品市民
 交流プラザで開かれ、市民
 ら約30人が望ましい避難所
 の在り方を考えた。

NGOダイバーシティと
 やま（宮田妙子代表）が開
 いた。多様性に配慮した避
 難所の運営方法を探ろう
 と、パキスタンとベトナム
 ネパール国籍の外国人も参
 加した。

確保といった避難所で想定
 される課題を話し合った。
 「英語を話せる」などの特
 技や「話を聞いてほしい」
 といった困りごとをそれぞ
 れ用紙に書き出して発表
 し、他の避難者のために何
 ができるかを考えた。

ベルディの傑作
 情感豊かに表現

県イタリアオペラ研

県イタリアオペラ研究会
 の第2回公演が13日、富山
 市民プラザアンサンブルホ
 ールで開かれ、19世紀イタ
 リアの作曲家、ジュゼッペ
 ベルディの傑作オペラ「ド
 ン・カルロ」を上演した。
 同作は、16世紀のスペイ
 ンを舞台に王子ドン・カル
 ロが、父のフィリポ2世
 やかつての婚約者エリザベ
 ッタなどと繰り広げる愛や
 友情、政治の葛藤を描いた
 物語。出演者は複雑な人間
 模様を情感たっぷりの歌声

外国人留学生向け「防災教育および災害サポーター養成ワークショップ」開催



2025.1.15北日本新聞



富山国際学院に通う11か国59名の留学生と聴講生が受講
2年生11名は学習発表会でも、防災について発表。
防災ボトルを作って常にかばんに入れておくことや
災害時に自分に何ができるかを発表した。

年代別人口の推移と 将来予測(日本)

国立社会保障・人口問題研究所の
「将来推計人口(令和5年推計)」

年	総人口	65歳以上	70歳以上	高齢化率 (65歳以上)
2020年	約1億2,615万人	約3,617万人	約2,889万人	約28.6%
2030年	約1億1,662万人	約3,747万人	約3,160万人	約32.1%
2040年	約1億0,912万人	約3,891万人	約3,433万人	約35.7%
2050年	約1億0,193万人	約3,936万人	約3,574万人	約38.6%
2070年	約8,700万人	約3,367万人	約3,200万人前後(推定)	約38.7%

外国人留学生 (2024年5月1日時点 独立行政法人日本学生支援機構)

総計: 全国 336,708人

- ・大学院: 58,215人
- ・大学(学部): 87,421人
- ・短期大学: 3,265人
- ・高等専門学校: 506人
- ・専修学校(専門課程): 76,402人
- ・準備教育課程: 3,658人
- ・日本語教育機関: 107,241人

若い留学生の力を
防災に生かすことは
重要！

前年比57,434人増(+20.6%)という大幅な伸び

災害時の多文化共生の重要性

災害時に起こる困りごとは平時の困りごとの延長

外国人でも役に立てることはたくさんあるはずなのに災害時に災害弱者になっていることへの苛立ち

⇒これは富山の外国人住民の声だが、輪島の外国人住民からも・・・

「私は1人でできるのに、市役所の人には、すぐに『お父さん(日本人配偶者)は?』と聞かれる。私は子どもじゃないよ。ちゃんと大人として見てください。」

・・・これらは災害時に限らず、平時から外国人住民の抱いている思い

平時から「互いが互いを支え合う存在である」
という自覚を持つことが大切！

そのために私たちができることは何だろう？



課題解決のために・・・ ～避難所運営から考える～

- ・さまざまな文化や特性を持つ人が混乱しないための、環境づくり。

避難所であれば、避難所自体をいわゆる日本人の健常者を標準にするのではなく、多様性に配慮した避難所運営のために、環境(衣食住はもとより、さまざまなルール、掲示物や情報伝達の方法など)を整えていく。

- ・共有スペースとパーソナルスペースを特性に応じて整えていく。
- ・当事者ができることを尊重する。

要配慮者、要支援者であっても、避難所運営や生活再建のためにできることがあると理解し、当事者ならではの役割を発揮してもらう。また、その役割を担ってもらうことで、自己肯定、他者理解を促進させる。

- ・互いが互いを支え合う存在であるという自覚を持つこと

日頃から、地域はもちろん、自身が属している社会(会社、活動団体(ボランティア活動やサークル活動、趣味の講座等))、友人知人とのつながりを意識し、生活していくこと

こうした課題解決のためには、行政はもちろん、さまざまなセクターが課題解決のファクターを担っていることを自覚し、各個々人が意識的に社会参加しうるような土壌を作っていくことが大切である。

そしてもっといろいろな場面で外国人住民自身が参画できるようにしていくこと

⇒ 多様な担い手がともに、解決策を検討していく場があること

多文化共生にとって大切なことは・・・

日本人であれ外国人であれ

「この地域でともに暮らし、この地域と一緒に作っていく人」が肝

そして、その時に大切なのは、「あたりまえはあたりまえじゃない」という視点
～多様な見方を味方にしよう～

ちがいに気づき ちがいを活かし ちがいが創る しなやかな地域社会に向けて



ご清聴ありがとうございました！



医療機関がムスリム女性を
診察するときに気をつけてほしいこと

監修：NGO ダイバーシティとやま



外国の方が病院に
行きたい時の問診
票などダウンロード
できます。

共創のみらい富山 ⇒
JICA北陸等と
実行委員会を作って
活動しています。



The Colors
～人生に彩りを～
という番組で紹介されました。
よかったらご覧ください。



ブログ「ダイバーシティとやま」な日々
多様な人の多様な生き方を綴って
います。現在229名掲載中

1993年開校の日本語学校
富山国際学院のホームページ
はこちらです。

